音羽連区の市長を囲む懇談会【概要】

日　時　平成２５年７月２９日（月）午後７時から午後８時３０分まで
場　所　音羽文化ホール　大会議室
参加者　連区長始め２０名
　　市長、副市長、企画部長、子育て支援監、建設部次長、上下水道部長、
　　支所統括監、教育部長

音羽連区長あいさつ

こんばんは。山脇市長を始め各部長には、ご多忙の中、ご出席いただきましてありがとうございます。

本日は、私たちの一番身近な生活圏における要望をお願い申し上げることで、一日も早く実現が図られ、町民全体が豊川市の一員としての一体感、連帯意識を持ち、合併してよかったというまちづくりが推進されることを期待するものです。今回の５つの議題について、将来展望を踏まえてよりよい回答が伺えたら幸いです。

（出席者の紹介）

豊川市長あいさつ

本日は、音羽連区の市長を囲む懇談会を開催いただきまして、ありがとうございます。日頃は、市政運営に対しまして、格別なご理解、ご協力をいただいておりますことを改めて感謝申し上げます。

今年、本市は市制施行７０周年を迎え、１月から来年３月まで、８０を超える記念事業の実施を予定しています。合わせて、市民の皆様のご理解、ご協力の下、この５月に新市民病院の開院を果たすことができましたことに感謝申し上げます。さらに、この１１月９日、１０日には「Ｂ－１グランプリｉｎ豊川」が開催され、過去最高の６４団体が出展します。今回は、豊川市だけでなく東三河全体で全国からのお客様を迎えたいと、準備しているところです。さまざまな事業に、ぜひともご参加くださいますようお願いします。

音羽町とは平成２０年の２月に合併し、５年が経過しました。私は常々、音羽町は文化の薫り高い地域であると感じています。音羽町は、愛知万博のフレンドシップ事業を契機にチェコとの交流事業を進められていて、先日も「チェコの夕べ」というすばらしい演奏会が開催されました。また、毎年、地元の皆さんが手弁当で行う杉森八幡社の小屋掛けや赤坂歌舞伎もすばらしい事業です。９月末には赤坂地区などを題材に、ＮＨＫが４０分程度の番組放映を予定しているそうなので、楽しみにしています。さらに、オレンジロードの無料化により交通の利便性が高まりました。

７月２５日に、最新の器具等を整備した南部学校給食センターの完工式が行われ、２学期から、軽くて安全・安心な食器を活用して給食を提供するようになります。

ぜひ、ご期待ください。また、この地域を含めて、御津や一宮等の山部では鳥獣被害が頻発しています。地元の農家の方等の協力を得ながら、被害防止に努めていきたいと思います。

本市はアメリカ合衆国カリフォルニア州キュパティーノ市と姉妹都市提携を結んでおり、今年、３５周年を迎えました。その記念事業として市民使節団を派遣した際に、御油と赤坂を描いた広重の浮世絵を贈ったところ、大変喜ばれました。なお、１１月のＢ－１グランプリを開催している頃に、今度はキュパティーノ市から市民使節団が本市にみえる予定です。

以上、市政の現状についてお話させていただきました。本日は、皆様のご意見をしっかり伺い、市政に反映していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

音羽連区長あいさつ

ありがとうございました。それでは、議題に入りたいと思います。

Ｑ①　萩地区の公共下水道事業の早期着工について

萩地区は、合併浄化槽になっていない家も多く、そうした家では単独浄化槽の機能も低下しつつあります。この地域は農業用水を引いていないので、川の水で稲作を行っており、川の汚れが農地に影響を及ぼさないか大変心配しています。

音羽地区は、市街化区域内の下水道整備が完了し、合併前に市街化調整区域の整備に向けて県の認可を受けていますので、早期に着手していただきますよう要望いたします。

Ａ①　上下水道部長（下水道整備課）

音羽地区の下水道整備事業については、ご質問にありますように、合併前に市街化区域内の整備がほぼ終了し、新たな市街化調整区域内の地区を追加する事業認可を取得しております。

平成２１年度（平成２２年２月１日）に小坂井町との合併も終え、１市４町すべてあわせますと、市域面積もかなり大きくなりました。こうした中、旧市町での事業の進め方にも違いがあり、一宮地区では、市街化調整区域内での整備につきましては、住民の方から同意書をいただいております。今後は地域ごとの状況をふまえて、地元への具体的な説明内容等について検討すると共に、受益者負担の徴収方法や金額の決定について十分検討し、事業実施の準備を進める必要があると考えております。

ご要望の萩地区につきましては、過去には地域振興協議会からの要望もあり、地元の強い熱意も感じております。今後、市域の事業の均衡性と各地区の異なった状況等を加味しながら、財政的な側面もございますが、下水道事業の効率的な整備を目指し、整備方針を打ち出していきたいと考えております。

着手時期につきましては、地域での同意をいただく中で進めなければと思っており、ご理解をいただく中で平成２７・８年度を目標にと考えております。

また、時期がきましたら、地元関係者や、地権者の方々へご説明させていただきたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

Q①関連　着手に必要な萩地区地域の同意について

ご説明の中で、着手時期が２７・８年度を目標にとしているということで、それには同意も必要とありますが、２６年度には取りまとめる必要があるのか、またどれほどの同意が必要か、数値的なものがありましたらお教えください。

さらに、市街化調整区域の下水道整備受益者負担金の算出根拠は、面積に対してなのか、区画に対してなのか、事例があれば教えていただきたいと思います。

Ａ①関連　上下水道部長（下水道整備課）

下水道事業は住民皆様の汚水を共同処理するものでございますので、多くの方の同意をいただき効率的な整備を行う必要があります。また、下水整備におきましては、地域の皆様に受益者負担の他に接続に係る費用等のご負担も掛かってきますので、同意をいただく中で進めてまいりたいと考えています。

２７・８年度に着手しようとなると、２６年度には地元住民の方のご意向を伺う必要があると考えています。下水道事業は、整備費として地域の皆様方の負担金が係わってきますが、市街化区域では公共下水道事業、市街化調整区域においては特定環境保全公共下水道事業を基本として行っています。

数値的なものにつきましては、過去に一宮地区で９５％以上の同意をいただいたという例もございます。効率的な事業整備を進めるためにも、同程度の同意をいただければと考えています。

受益者の負担金の算出根拠は、特定環境保全公共下水道事業として区画に対して算出をしていきます。

Q②　萩小学校の校舎建替えについて

萩地区は、小学校、体育館、市民館、保育園が一体となって整備されており、教育や地元のコミュニティの拠点となっています。

萩小学校校舎は、昭和３１年に建設され５７年が経過しており、老朽化が進み、地震等災害時の児童生徒の安全が心配されますことから、安心・安全のためにも早期に校舎の建替えをお願いいたします。

Ａ②　教育部長（教育委員会庶務課）

萩小学校の校舎につきましては、昭和３１年に建設され、その後、昭和６２年に大規模な改修を実施しております。また、平成８年度に耐震工事を実施しており、校舎の耐震性は確保されておりますが、建築後５７年が経過しており、老朽化が進んでおります。

校舎等の老朽化については、全国的にも、安全面や機能面において改善を図ることが喫緊の課題となっている状況であります。

これまで、鉄筋コンクリート造の建物の耐用年数として、「減価償却資産の耐用年数等に関する省令」に示されている４７年が目安として使用されることが多く、そのため、文部科学省の調査においても、建築後５０年前後を建替えの目途と考えている自治体が多い結果となっています。

しかしながら、一般的には実際の物理的な耐用年数は、法定の年数より長く、昨今では、適切な維持管理がなされ、コンクリート及び鉄筋の強度が確保される場合には、建築後７０年から８０年程度の使用が可能であるという考え方に変わってきております。これにより、建物の長寿命化や工事費の低廉化、改築に伴う廃棄物の排出量の少量化などが図られることになります。

このような背景から、萩小学校の校舎について、どの程度の期間、既存の建物が安全な状態で使用できるかを把握するため、今年度、建物のコンクリートの強度が低下していないか、コンクリートの中の鉄筋が錆びていないか、また、コンクリートの性質に変化がないか等を調査し、校舎の構造躯体自体の耐久性と劣化状態の確認を行います。その上で、建替え工事を行うのか、或いは建物の耐久性が維持できる期間に対応する大規模改修工事を行うかを判断しまして、今年の９月頃には整備方針を決定いたします。

なお、建替え工事、或いは大規模改修工事のいずれにおいても必要となります学校周辺の土地の測量作業については、既に今年の６月下旬から行っているところでございます。

Ｑ②関連　来年度以降の計画時期等について

９月頃に整備方針を決定するとのことですが、来年度以降のスケジュールを伺います。また、長寿命化を図る判断基準の有無と、市の公共施設で長寿命化の判断を行った事例についてお教えください。

Ａ②関連　教育部長（教育委員会庶務課）

平成２６年度以降については、整備方針によって具体的な実施計画を決めてまいりたいと考えておりますが、最短で、平成２６年度に実施設計をまとめ、２７年度から工事ということもあろうかと思います。そうしたことも含め９月から１０月には全体計画をまとめてまいりたいと考えています。

長寿命化の判断基準については明確なものがありません。今年度の調査結果を踏まえて、しっかり検討していきたいと考えています。

Ａ②関連　副市長

市公共施設で長寿命化の判断をした事例としては、陸上競技場と橋梁が長寿命化計画を立てて補助金をもらっています。

判断基準については、２３年度、２４年度の議会の質問において、豊川市としては校舎の建替え基準を６０年と申し上げています。しかし、昨今、文部科学省から長寿命化の話がでてきた背景には、全国一斉に校舎の建替えが始まると、国庫補助

の負担が大きくなり、自治体への配分が薄くなってしまうという問題があるからです。本市では、これらの問題に対応すべく１０億円の整備基金を積んでいるので、調査結果を踏まえてしっかり判断していきたいと考えています。

Q③　赤坂保育園・赤坂児童館の建替えについて

赤坂保育園は築後４６年が経過し、また、児童館は保育園設立に伴い、当時音羽商工会の建物を転用、築年数はさらに遡ります。

現在の場所は、親が個々に子どもの送迎をしなければいけないとか、小学校と保育園、児童クラブが離れている等の問題があります。また、山と寺に囲まれ風通しが悪く、日照時間も短く、狭く万代塀に囲まれた園庭は、体力知力ともに伸び盛りの園児がのびのびと遊戯に興じることのできる環境とは言えない状況にあります。さらには建物や万代塀は地震等に耐えられるのかも心配です。

山側は土砂災害の危険区域で、狭く老朽化した万代塀に囲まれた園庭に安全な避難場所はなく、赤坂広場への避難は老朽化した児童館と寺の間を通らなければなく、二次災害の発生も考えられ、園児を守るための安全・安心の確保にほど遠い状態にあります。

以上の問題を赤坂園児の父兄代表者と、町内会役員で検討した結果、子どもの安全安心を一番に重視して、いい候補地があれば他への移転建て替えもやむを得ないとの結論に達しました。建替えは緊急を要する課題と考えておりますので、誠意ある回答がいただけることを期待します。

Ａ③　子育て支援監（子ども課）

日ごろから、児童館、保育園の運営には地元、地域の皆様方の御理解と御協力をいただき、誠にありがとうございます。

初めに、あかさか児童館につきましては、ご要望にあるとおり、建築後相当の年数（４７年）を経過しており、老朽化による様々な劣化箇所が指摘されているのは事実であり、これに対応すべく、市長マニフェストとして建替えを計画していることもご承知のことと存じます。

市としての建替え計画の進捗状況についてお話させていただきますと、今年度中を目途に建替え方針を決定し、来年度以降の基本・実施設計を経て、早期の建替えを目指しております。現在の課題としては、児童館に併設する赤坂児童クラブの取り扱いでございます。児童クラブの開設場所などによっては、児童館の建設場所が変わってくる可能性もありますので、児童クラブの取扱いを早急に決定していきたいと考えております。

財政状況が厳しい折ですが、連区の皆様の意見を参考にさせていただきながら、実現に向けて鋭意努力をしておりますので、今後ともご協力をよろしくお願いします。

続きまして、赤坂保育園でございますが、赤坂保育園は、山と寺に囲まれ、風通しが悪く、日照時間も冬場では午後になると園庭が陰り始めることなどから、決し

て最適な保育環境であるとは言えないと認識しております。
　また、赤坂保育園は、本市の公立保育園のなかで、もっとも古い施設でございまして、建替えなどの優先度は高いと考えております。
　保育園の建替えなどは、赤坂保育園に限らず、保育園を利用されている子どもの保護者の皆さん、並びに地元、地域の皆様のご理解をいただきながら、取り組んでいく必要があります。方針等が決まりました際には、ご協力をお願いいたします。
　なお、施設の安全性につきましては、旧音羽町時代の平成１４年に耐震診断を行い、同じく、補強工事を平成１５年度に施工しております。
　また、赤坂保育園の構造は、木造軽量鉄骨造り平屋建てでございますので、屋根が軽く地震による建物倒壊のリスクは低いではないかと考えております。
　次に子どもの安全対策ですが、赤坂保育園では、第１避難場所を園庭とし、第２避難場所は赤坂広場となっておりまして、避難経路を正門から児童館と正法寺の間を通行するものと、浄泉寺の境内地を通行するものと２方向を考えておりますが、あらゆる想定をし、臨機応変に対応できるように訓練を重ねていることころでございます。
　このように安全対策に取り組んでいるとはいえ、災害には想定外の事態も予測されますので、市内公立保育所のうち、もっとも老朽化が進んでいる赤坂保育園の建替えなどは、前向きに検討していかなければならないと考えております。

Ｑ③関連　赤坂児童館の建替え候補地について

　以前、児童館の建替え候補地として赤坂広場を提案されましたが、町民の憩いの場を失うことになるとの理由から私は反対し、老人憩いの家「宮路荘」の改築で対応できないかと考えています。宮路荘は生涯学習会館と離れた場所に設置されているため、不便で利用率が低下しています。小学校、保育園、児童館、児童クラブが一体となって整備されることを望みます。

Ｑ③関連　児童クラブについて

　音羽地区は４つの町内会があり、長沢と萩は１小学校区に１町内会ですが、赤坂小学校区だけは赤坂と赤坂台の２つの町内会があります。児童館は音羽中学校区に１館、児童クラブは小学校区に１つ整備するという方針だと理解していますので、児童クラブの設置については、赤坂台も候補としてご検討いただきたいと思います。

Ａ③関連　副市長

　ご要望として、お聴きしておきます。

Ｑ④　市有地である長沢駅前の土地の整備について

　長沢駅前の市有地については、旧音羽町が合併前に緊急時の避難場所・地区の遊び場として用地を購入し、合併前に地区の防災倉庫置き場として部分的な整備しましたが、一部の土地について名古屋鉄道との協議が整わなかったことから、全体と

しては未整備で現在に至っています。

現状は、かなり草が生い茂っていて、害虫等の発生も苦慮されています。長沢駅は市道と踏切が交差しており、コミュニティバスの駐留場所にもなっています。駅の利用者や送迎車等の安全確保のためにも、当初の目的達成のための整備が早期に行われるよう強くお願いします。

Ａ④　建設部次長（公園緑地課）

長沢駅前ロータリー、広場の計画の経緯につきましては、旧音羽町が平成１１年、道路用地と広場の用地として個人から用地取得しております。それと同時期に名古屋鉄道株式会社へ名鉄長沢駅前の名鉄所有地（駐輪場跡地）を町への貸し出し及び売却について打診しましたが、名鉄としては、駐車場として賃貸する計画があるとのことで断られたと聞いております。その後、買収した一部を広場として整備し、防災倉庫を設置して利用して頂いております。

合併後の平成２２年５月には、コミュニティバスの運行経路に絡み、岡崎にあります名鉄東部支配人室を訪ね、名鉄所有地の借地等について再度伺ったところ今のところ借地や売却の考えはないとのことでした。

用地買収をして長く放置されていることから、平成２５年に入りまして、名鉄本社不動産事業本部と鉄道事業本部と交渉の場を何度か設け、豊川市の駅前周辺整備計画の意向を伝えました。６月下旬になりまして、用地買収に応じてくれるとの返事を頂きましたので今後、名鉄用地を含め周辺整備の計画を進めていきたいと考えております。

その周辺整備計画のうち道路計画は、名鉄所有地の南側の赤道を名鉄側に拡幅し、道路用地として買収済みの用地を活用することで、既存の道路と接道でき駅前のロータリー化の整備が可能かと考えます。また、広場として買収してある土地を有効利用することによって、小規模な駅前広場や既存より少し広い多目的広場が整備出来るのではないかと考えております。何れも、地元の意見を聞きながら計画を進めたいと思っております。

ところで先月の中頃、地元お住まいの長沢駅を利用して通勤している方より、駅付近の道路は狭く朝夕、電車利用者の送迎車両で進路をふさぎ、一つ間違えれば事故が発生しそうな状況であり改善に向けた取り組みをお願いしたいとのご意見を頂きました。

そこで、７月２日（火）に朝６時から９時、夕方４時から７時の６時間、公園緑地課職員で交通状況調査を行いました。調査中、東名の側道との交差点で危険な状況を数回確認し、送迎車両の路上駐車状況、台数も把握いたしました。

市としても、駅周辺の事故を回避すること、また未利用の私有地を有効利用する上で早期に整備する必要性があると考えておりますのでよろしくお願いします。

Ｑ④関連　長沢駅前整備のスケジュール等について

今後、どのようなスケジュールで進められるのか、また、市有地だけでなく、隣接する私有地を取得してまでの整備を検討されているのかお伺いします。

Ａ④関連　建設部次長（公園緑地課）

現状では、用地買収をしてまでの整備は検討しておらず、名鉄所有地を取得し、赤道を広げて一方通行で通り抜けできるような整備を考えています。先日、初めて名鉄から用地買収のお返事をいただいたばかりで、用地価格等の具体的な交渉等はこれからになります。その交渉次第で、長沢駅前の整備にかかる基本計画、設計、施工となりますので、用地取得から着工までには２年から３年を要するかと思います。名鉄からやっと前向きな回答をいただいたので、しっかり進めていきたいと思います。

Ａ④関連　副市長

この件については、市長から「できるだけ早く実施するように」との指示を受けています。行政としてでき得る最短のスケジュールで進めていきたいと思いますので、ご理解のほど、よろしくお願いします。

Ｑ⑤　赤坂台地区内の側溝改修及び下水道管の早期敷設替えについて

赤坂台は昭和４９年に宅地造成がされ、３９年が経過しました。造成と同時に下水道や側溝も整備されましたが、平成に入ると、その老朽化がいたるところで進んでおります。

平成３年度から１８年度にかけて下水管の改築工事を、平成１７年度には側溝の目地補修を旧音羽町において行っております。

下水道管や総延長１５から２０㎞とも言われる側溝の布設替えについては合併後も計画的に行っていただいておりますが、早期に改修が完了しますよう、今後とも予算措置をお願いいたします。

Ａ⑤　上下水道部長（下水道管理課）

赤坂台地区におけます下水道管の改築は、旧音羽町との合併後も引き続き進めており、総延長８㎞のうち約６割が改築済みとなっています。現在は、下流側で傷みが大きい箇所から敷設替えや管内の補修を行いながら順次、上流に向って施工しています。施工にあたりましては、住民生活への影響を軽減するよう、道路改修や水道管の敷設替工事と同調して実施してまいります。

次年度以降も引き続いて工事を行いますが、側溝整備と合わせて、限られた予算の中で行ってまいりますので、ご理解をお願いいたします。

Ｑ⑤関連　整備完了の目途について

いつごろまでに、整備は完了するのでしょうか

Ａ⑤　上下水道部長（下水道管理課）

あと４割ほど残っており、これまでの経緯の中で、いつごろまでに完了するのかは明確に言えませんが、現在、市費単独事業で行っており、今後、こういった維持修繕費についても国庫補助事業で採択ができるようになれば、もう少し早く整備ができると思います。こういった国の動向も見ながらなるべく早く整備ができるよう努力してまいりますので、よろしくお願いします。

Ｑ⑤関連　側溝の種類について

側溝には、一体型と蓋をかぶせる型の２種類があるようですが、どうして新しく整備するにあたって、統一した型ではなく２種類が混在するのかを伺います。

Ａ⑤関連　上下水道部長

１㎝ほど隙間の開いた一体型の側溝は都市型側溝といい、蓋付きの側溝と比べてカタカタ音がしないとか強度が高いといった長所があります。現場の道路の状況によって使い分けをしております。

Ａ⑤関連　建設部次長（道路維持課）

蓋をかぶせる旧来のＵ字型側溝は安くて清掃が簡単なため、交通量や乗り入れが多い箇所には都市型側溝を設置し、そうでないところには旧来型側溝を整備しています。最近では、都市型側溝が主流となっています。

音羽連区長あいさつ

以上、５項目について、それぞれ前向きなご回答をいただきましてありがとうございました。いずれも重要な案件ですので、早期実現を期待申し上げて、本日の市長を囲む懇談会を終了させていただきます。ありがとうございました。